

第7回 沖縄科学技術大学院大学学園の今後の諸課題に関する検討会 議事要旨

1. 日時：平成28年2月8日（月）13:00～15:00
2. 場所：中央合同庁舎8号館 8階 特別大会議室
3. 出席者

（1）検討会委員

平澤座長、相澤委員、岡崎委員、野路委員

（2）内閣府

藤本沖縄振興局長、日下審議官、岡本総務課長、中嶋次長、池上事業振興室長、
新田専門官、原専門官、田原専門官、矢島専門職、小林係長

4. 議事要旨

議事1 平成28年度予算案について

議事2 平成28年度学園事業計画について

事務局（内閣府）から、配布資料に基づいて説明がされた後、委員から以下のような意見があった。

- 沖縄の海洋科学研究センターは、JAMSTEC（海洋研究開発機構）と比べて小規模だが、どのような特色をもって小規模で運営するかのコンセプトの絞り込みが必要ではないか。
- 海洋関係の研究を推進するには、JAMSTECとの連携を行うことが必要ではないか。
- POC（Proof of Concept）プログラムにおいて、ある程度沖縄振興に資するような研究テーマにし、沖縄の企業がないのであれば、自分でベンチャー企業をつくっていくくらいの意気込みで進めるようにしないと、大学だけは潤うが周辺には波及しないということが懸念されないか。
- 経験則で言うと、地域の企業は、最先端の研究よりは、既に研究成果が出ていて熟度が高くなっているものの方が受け取りやすく、実際にそのような案件の方が産学連携もうまくいっている。OISTの機能として、世界的な研究に貢献するということがあるので、マーケットは世界とし、その結果、副次的に出てきたものについて、地域の企業が絡んでいくとか、そういう使い分けをした方がよい。
- POCプログラムは是とすべき取組である。プロトタイプをつくった後の支援策が今後の重要な課題である。
- OISTでは高いレベルの研究者の採用メカニズムは確保されている。問題は、研究者の融合の仕掛けの中で化学反応が起こって、トップ1%以内がいくつも出るような形になるかであるが、これにはもうすこし時間がかかるのではないか。

議事3 OISTの先駆的取組について

事務局（内閣府）から、配布資料に基づいて説明がされた後、委員から以下のような意見があった。

- OISTと国立大学では、置かれている条件、自由度が異なるので、このことを念頭に置いてそれぞれのファクトを整理すべきである。
- OISTは、既存のいろいろなシステムや制度を取り払って取り組んでいるところだからこそ、OISTへの資金が生きるのだという形で整理しないと、単なる国からの資金の多寡の問題になってしまうのではないか。
- OISTの場合、基礎研究が主体の大学であるから、基礎研究重視の大学と比較しながら、どうやって新しい発明が生まれるかというところを中心にしっかりやってもらう必要がある。
- OISTのミッションの一つとして沖縄振興があるが、どのような形になることが沖縄振興かということを決めて、その結果をフォローした方がよい。例えば、ベンチャー企業の設立や知的・産業クラスター形成は沖縄振興であるだろうが、OISTでの学会開催や、地域の理科教室なども一つの沖縄振興である。
- OISTがそれぞれの分野で先駆的な仕組みを取り入れてチャレンジをしていく、そのチャレンジそのものが他大学のロールモデルになっていくと想像する。
- 運営費を今後自助努力によって獲得するようにシフトしていくに当たって、どこに目標を置き、どういう展開をしていくのかということがもう少し見えてくると分かりやすい。
- 大学が全体として企業と一緒に取り組んでいる事例もある。そうしたモデルを比較することも重要ではないか。

- この資料は、引き続き座長と事務局との間で再調整する。

(以上)